

# 七ヶ谷情報紙 第74号

ホットな品川区の情報や話題をお届けします。

発行日：平成26年8月15日（金曜）

発行者：若林ひろき 品川区議会議員

ブログ <http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/>

ツイッター [https://twitter.com/wakabayashi\\_h](https://twitter.com/wakabayashi_h)



# もくじ

- 品川区の貯金  
品川区史を新たに発刊  
私の本棚  
「ぼくは数式で宇宙の  
美しさを伝えたい」

- 2P 美しきを伝へんこ  
・交通安全教室  
・区議会スケジュール  
・伊豆大島復興支援  
・しながわラーメンマップ



## 大崎郵便局付近であわや大惨事

6月25日午後1時過ぎ、山手通り大崎郵便局交差点の上を走る首都高速目黒線で、トラックが横転し、積んでいた鉄パイプが高架下に一部落下し、車などを直撃する事故がありました。幸いにもトラック乗車の人以外のけが人は出ませんでしたが、大惨事となるところでした。現場に駆けつけると、写真で分かる通り高速道路の防護柵が交差点の入口あたりで止まっています（赤〇部分）。首都高速道路(株)は、都の要請などにより今後、防護柵の延長工事を行なっていきます。

## 品川区の貯金

行政財政改革特別委員会では、「基金」のことを調査・議論しています。いわゆる貯金ですね。26年3月末の時点で、合計約730億円あります。主な基金と金額を表にしてみます。

基金名	残高
公共施設整備基金	298億円
義務教育施設整備基金	130億円
減債基金	120億円
財政調整基金	95億円
地球環境基金	30億円
社会福祉基金	25億円
介護給付費等準備基金	21億円
地域振興基金	6億円
平和基金	2億円



さて、多いのか少ないのか、何に使われているのか、が気になるところです。多い少ないは、これまで議会の中で複数議員から質問されていますが、明確な基準はないようです。今後の行政サービス需要を把握し、それぞれの基金ごとに委員会の中で検討しなければなりません。

何に使われているのか、残高の多い二つの基金について委員会に資料（19年度～25年度）が提出されました。このような資料が出されるのは初めてで

です。委員会で取り上げることの重さを改めて感じます。まず、「義務教育施設整備基金」は、その名の通り学校を造るためですので明快です。小中一貫校・豊葉の杜学園35億円、荏原平塚学園46億9千万円、品川学園30億円、八潮学園8億5千万円、第三日野小16億2千万円などとなっていました。学校は施設の中でも大きな割合を占めますので、確実に積み立ておくことが必要です。次に、「公共施設整備基金」は、様々な施設整備のために使われてきました。

施設名	充当金額
上大崎旧みやこ荘跡地取得(特養ホーム)	5億円
八潮南特養ホーム	14億円
高齢者グループホーム東大井	1.4億円
高齢者ケアホーム西大井	2.95億円
平塚幼保施設	3億円
二葉幼保施設	4億円
北品川幼保施設	3.6億円
スクエア荏原	21.7億円
五反田文化センター・図書館	20.54億円
商店街電線地中化	9.9億円

他に、地域センターや公園整備など様々で、7年間で118億円が使われました。

委員会では、新たな基金の必要性も含め、調査・議論が続きます。

# 品川区史を新たに刊行します

品川区の歴史・特色・あゆみなどをまとめた「品川区史2014 歴史と未来をつなぐ まちしながわ」が8月22日に刊行されます。区

史の発刊は約40年ぶりとなります。映像・データの入ったDVDディスクも付いていますので、見やすく・調べやすく・楽しめる区史になりました。区史のお求めは区内一部書店のほか、区役所、品川歴史館、なかむPLAZAなどで取り扱っています。

ここで、母は自閉症児を持つ母として、重要なポイントを教えていきます。誰ともコミュニケーションが取れなかつたゆえに、やりたいことに打ち込む時間と場所が与えられたこと。学ぶ方法を教える人がいなかつたことで、自閉症によって世にも珍しい才能を伸ばすことになつたこと。即ち、自閉症児は治療しなければならない存在と考えがちであるが、治療するのではない、子どもが自分の世界から私たちの方へ出てくるのを期待するのではない。こちらから子どもの世界に入つていいくようにすれば、明るい道が開ける、と教えています。(終わり)

前号では、ジエイクが18ヶ月ぶりに“おやすみ”と言つたことを紹介しましたが、発するのは単語だけ。でもやがて、会話ができる瞬間がやってきます。宇宙のこと、強い関心を示す息子のため、プラネットリウムで開かれる火星の講座に一緒に参加します。大学教授が参加者に向かつて質問します。「なぜ火星の月は橢円形なのか」。会場の大人たちは誰も答えられない中、ジエイクは手を挙げ、「火星の月の大きさを教えていただけますか？」教授の答えに対し、「火星の月は小さいので、質量も小さい。つまり、球体をつくるほど引力の作用が強くないからです」。三歳のジエイクは正しく答えてしまいます。母の驚きと大人たちの賞賛！その後も通り続け、ひと夏で天文台の常連となり、天文学に接する時間が長くなるほど、ジエイクの内向性は影をひそめ、コミュニケーションをとることを学んでいきます。

「ぼくは数式で宇宙の美しさを  
伝えたい」  
**(クリスティン・バーネット／角川書店 その4**  
「自閉症」と二歳で診断されたアメリカ人の男の子・ジエイクは、『驚くべき才能を秘めた子』母の気付きと子育てによって九歳で大学に入学してしまいます。その格闘記を母自身が綴っています。